Meltec
Mechanical
electrotechnics

F-70

油圧式
ローダウン車専用

ローダウンジャッキ2t

LOW DOWN JACK

純正ローダウン車のタイヤ交換などの作業が簡単!

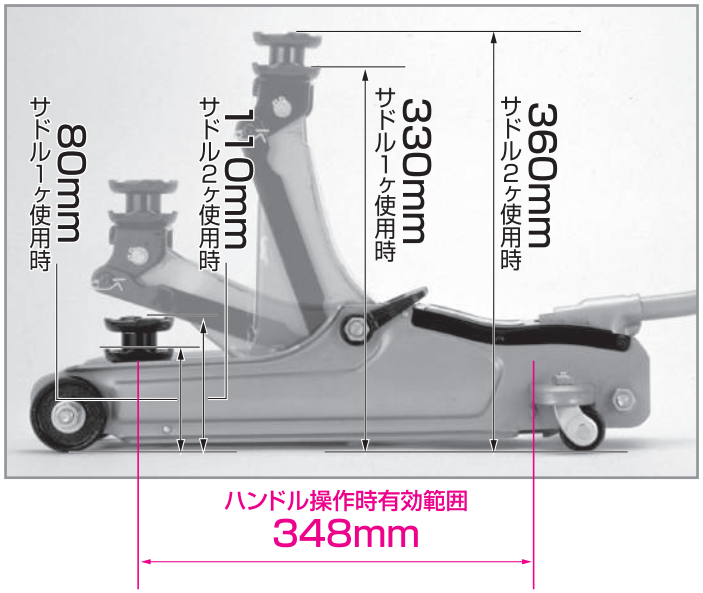
油圧式なのでラクラク操作

取扱説明書

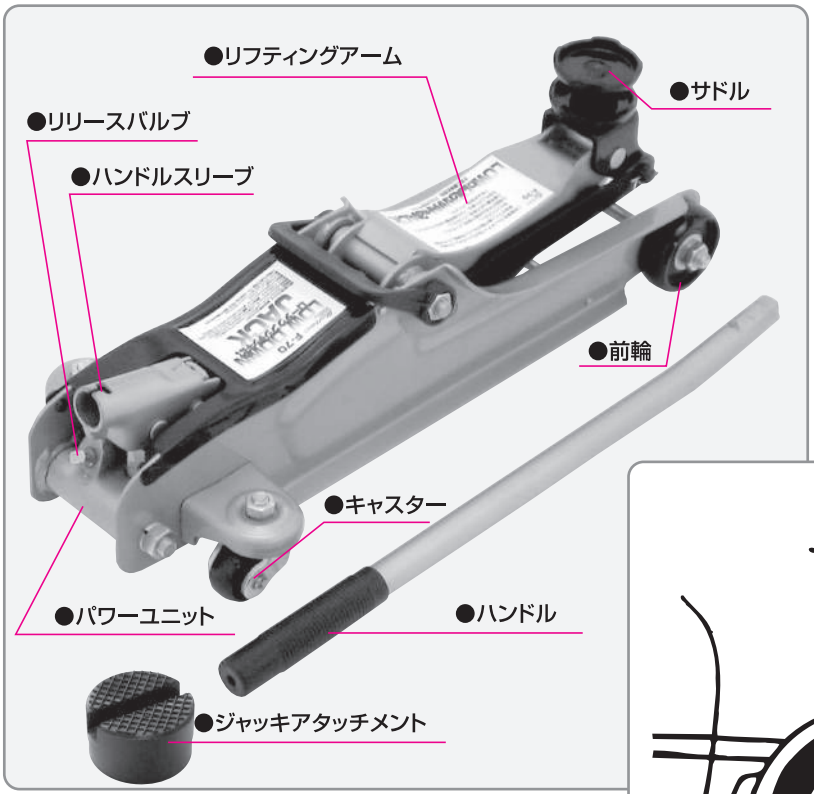
この度は、「F-70 ローダウンジャッキ」をお買い求めいただき、
誠にありがとうございます。
本製品を正しく安全に、ご利用いただくため、また本製品の
機能を十分に活かしていただくため、ご使用前に、この取扱
説明書を良くお読みください。
尚、この取扱説明書は大切に保管しておいてください。

あらゆる状況に対応しサポートする

自動車のタイヤ交換、タイヤチェーンの着脱や整備をスムーズに…



各部の名称



サドル分離方法

上側のサドルを持ち上げる様にして回して抜いてください。

安全にお使いいただくために

■使用目的

2tローダウンジャッキ（油圧式）は純正ローダウン車のタイヤ交換、タイヤチェーンの着脱や整備の際に自動車をジャッキスタンド等で保持させる為に、ジャッキアップまたは、ジャッキダウンさせる目的で使用するジャッキです。
2tローダウンジャッキ（油圧式）はジャッキアップ状態での洗車作業等には使用できません。

■使用上の注意（重要）

⚠ 危険

- ●ジャッキを改造したり用途以外の目的で使用しないでください。
- ●取扱説明書をよく読み十分理解された上で使用してください。取扱説明書には重要事項の説明が記載されています。記載内容に従わずに使用した場合、重大な事故につながります。
- ●安全バルブは出荷時に安全荷重に調整されていますので調整等は絶対にしないでください。
- ●自動車をジャッキアップ及びジャッキダウンする際は車体の下に人や物などがないことを確認してから作業を行ってください。
- ●ジャッキに異常が発生した場合（オイル漏れ、フレーム変形等）、使用を中止して、異常箇所の修復を完全に行うまでジャッキを使用せず、直ちに販売店又は当社宛へご連絡ください。そのままご使用になった場合、重大な事故につながる危険があります。
- ●2tローダウンジャッキ（油圧式）の能力（2t）以上の負荷で使用しないでください。

⚠ 注意

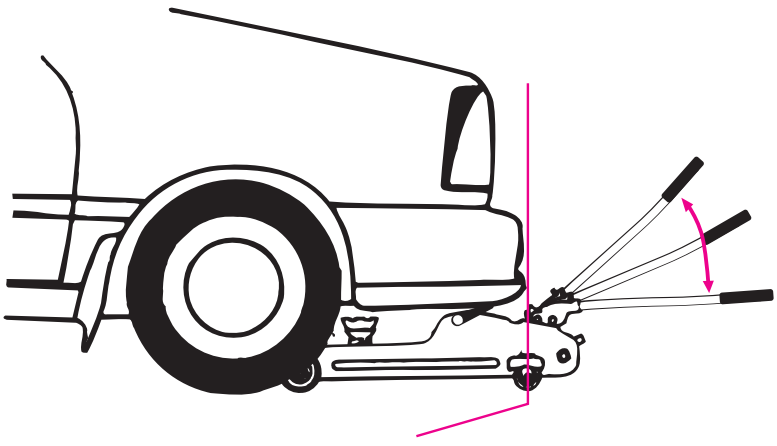
- ●ジャッキ2台以上の同時使用はしないでください。
- ●2tローダウンジャッキ（油圧式）は−20°C〜60°Cの範囲の温度環境で使用してください。
- ●2tローダウンジャッキ（油圧式）は業務用には使用しないでください。
- ●違法改造（ローダウン）車には使用できません。

仕　様

■ローダウンジャッキ2t 仕様

ジャッキ最大耐荷重	2000kg
ジャッキ適用車両	車両重量2000kg以下
リフティングアーム最低	サドル1ヶ時80mm /サドル2ヶ時110mm
リフティングアーム最高	サドル1ヶ時330mm /サドル2ヶ時360mm
本体サイズ/重量	530（W）×140（H）×214（D）mm/11kg
ハンドルサイズ（全長）	500mm
ハンドル取付後全長	980mm
サドルサイズ	φ55mm/肉厚4mm
使用温度範囲	−20°C〜60°C
作動油	油圧潤滑油
油　量	98cc

有効範囲図



これ以上車体の下に入れるとハンドルの上下操作が出来なくなります。

安全上のご注意

●ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、よく理解された上で正しくお使いください。

F-70 ローダウンジャッキ2トンを

安全に正しくお使いいただくために必ずお守りください。

お買い上げいただいた製品本体表示および取扱説明書には、使用者や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本器を安全にお使いいただくために、守っていただきたい事項を表示しています。その表示と図記号の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

注意　この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が障害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

危険

●電子制御エアサスペンション装着車は、ジャッキアップ時、必ず車の取扱説明書をご確認の上作業をしてください。車高が変わり思わぬ事故につながる恐れがあります。

●ご使用前に無負荷状態でジャッキアップテストを行ってください。
もし不具合な点がありましたら、ただちに使用を中止してください。そのまま使用しますと車両やジャッキの破損ばかりではなく、ケガや人命にかかわる事故を引き起こす原因となります。不具合な点がありましたら、必ずご使用前に販売店又は当社宛ご連絡ください。また、使用して製品に異常がでましたらすぐにご連絡ください。

●絶対に耐荷重以上の荷重をかけないでください。
ジャッキが荷重に耐えられずジャッキスタンドが破損し車両が落下するばかりではなく、ケガや人命にかかわる事故を引き起こす原因となります。

●ジャッキアップする車両のまわりに人がいないことを確認してください。
ジャッキアップの際、まわりに人がいた場合万が一車両が動きますと、ケガや人命にかかわる事故を負わせてしまうことになります。ジャッキアップ車両の3メートル以内に、人がいない事を確認してから作業を行ってください。

●ジャッキアップする車両のまわりに他の車両や物がないことを確認してください。
ジャッキアップの際、万が一車両が動きますと、ジャッキアップ車両が他の車両や物に衝突する恐れがあります。ジャッキアップ車両の、まわりに他の車両や物がないことを確認してから作業を行ってください。

●ジャッキアップする際は、必ず水平であり、コンクリート等の固い場所で行ってください。
設置面が柔らかい場合、荷重により本製品のタイヤが設置面に埋まり、設置面を傷付けるばかりでなく、ジャッキが傾き車両が落下する恐れがあります。斜面でのジャッキアップも同様で、車両が落下する恐れがあり、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こす原因となります。

●ジャッキアップの前に、必ず車のサイドブレーキを引いて、上げないタイヤに車輪止めをしてから行ってください。
そのままジャッキアップしますと車両が動き、ジャッキが外れ車両が落下する恐れがあり、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こすことにもなりますので必ず行ってください。。

●ジャッキアップする際には、必ず車両側の固い金属部分を選んでジャッキアップしてください。
強度不足の場所でジャッキアップを行いますと、車両の破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こすことになります。

●車両指定ジャッキポイントでジャッキアップする場合、ジャッキのサドル形状とジャッキポイントの形状が合っているか必ず確認してください。
ジャッキのサドルが、ジャッキポイントに合わない場合に無理にジャッキアップしますと、ジャッキポイントの破損ばかりか、ケガや人命にかかわる事故を引き起こすことになります。

●ジャッキアップをして作業する場合は安全の為、必ずジャッキスタンドで車両を支えてから行ってください。
ジャッキだけで支えた状態は1点だけで支えているのでバランスが悪く、作業を行いますと車両が落下する恐れがあり、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こすことにもなります。必ず作業する際は2個のジャッキスタンドで確実に車両を支えてから行ってください。

●ジャッキアップ中に車両の下に頭や体を入れないでください。
万が一、ジャッキアップ中にジャッキポイントからサドルがズレて落下した場合、車両やジャッキの破損ばかりではなくケガや人命にかかわる事故を引き起こす原因となります。

●ジャッキを下ろす際は、車両の下に人がいない事とジャッキをおろす人の体が車両に当たらないかを確認してください。
人が車両の下に入っている状態でジャッキを下ろしますと、車両に押しつぶされケガだけではなく人命にかかわる事故を引き起こすことになります。また、ジャッキを下ろす人やそれ以外の人の体が車両に当たる位置にいますと下ろした時に車体が体に当たりケガをする恐れがあります。

●車両をジャッキアップしたまま離れないでください。
車両から離れている時に、万が一、使用者以外の人が車両やジャッキを触ったりしますと、ジャッキの破損や車両が落下し車両の破損だけでなく、使用者以外の人にもケガや人命にかかわる事故を負わせてしまうことになります。

危険

●ジャッキを下げている途中に、ジャッキのハンドル以外の場所には絶対に触れないでください。
ジャッキの可動部分に手など触れますと、はさまれてしまう可能性があり、ケガを負う場合があります。

●ジャッキの持ち運びをする際に、指などをはさまないよう注意してください。
ジャッキの可動部分に指などを入れますと、はさまれてしまう可能性があり、ケガを負う場合があります。また、1人で持って重いと感じましたら無理に1人で持たず、2人以上で持ち運びしてください。ジャッキを路面に下ろす際も路面とジャッキの間で指をはさんでケガをしないよう十分注意してください。

●ジャッキのハンドルはジャッキアップの時以外は、必ず外してください。
使用者や使用者以外がハンドルにつまずいてケガをする可能性がありますので、ハンドルは本体から外しておいてください。

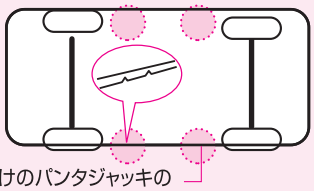
●ジャッキを下げる時は、必ずハンドルでリリースバルブをゆっくりとゆるめてください。
バルブをゆるめる際、かたくなっていますので力強くバルブをまわしますと、車両が急激に落下しますので、車両及びジャッキの破損につながります。バルブをゆるめる要領としまして、まずゆるめる側（左側）へまわし、バルブがまわったらすぐしめる側（右側）へまわして少しずつ下げていくようにしてください。

●ジャッキアップ中にジャッキポイントとサドルがズレる事がありますので時々確認してください。
ジャッキポイントからサドルがズレ、外れてしまうとジャッキの破損ばかりではなく、車両の破損につながりますので時々チェックしてください。

●ジャッキアップの際は必ず各車両指定のジャッキポイントを確認してください。

指定以外の位置でジャッキアップしますと、その部分が破損する恐れがありますので、必ずジャッキポイントが適切な位置か確認してから行ってください。また、わからない方は車の販売店などで確認してください。

ジャッキポイントは使用されるまえに、カーディーラー及び整備工場で必ず確認してください。純正ジャッキ用のポイントでは車両を破損させる場合があります。



※このジャッキポイントは、車両に備え付けのパンタジャッキのジャッキポイントです。　ご使用は絶対に止めてください。

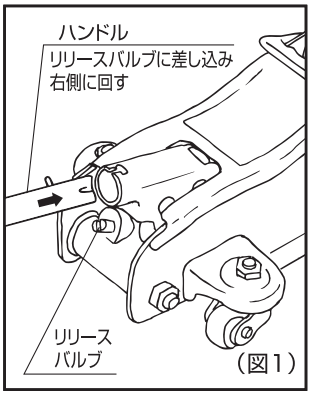
※使用する場合（車両の側面からのジャッキアップ）は、必ずジャッキアタッチメントを使用してください。

車両をジャッキアップさせる作業は様々な危険がともなうものですので、十分注意し慎重に作業を行ってください。

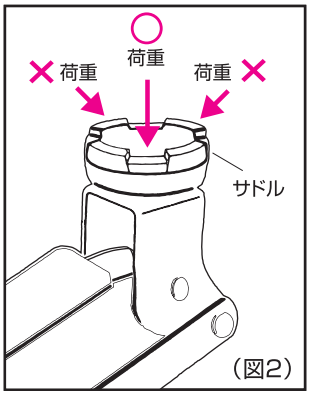
ご使用方法

ジャッキアップ

①水平で堅い路面にジャッキを置き、ジャッキポイント※の位置にサドルをセットしてください。
※ジャッキポイント:車体下部にあるジャッキのサドルを当てるための最適な箇所（フロアージャッキ用のジャッキポイントは車種によって異なりますので車両に添付のマニュアルや自動車メーカー、販売店に問い合わせる等、事前に確認してください。）
②ハンドルの先端をリリースバルブに差し込み、ハンドルを時計方向（右側）に回してリリースバルブを締めます。締め付けが不十分な場合、ジャッキアップしませんので、しっかりと締め付けてください。
（図1参照）
③ハンドルをハンドルスリーブに差し込み上下に動かし、サドルをジャッキポイント付近まで上昇させた後に一度停止させて、荷重の中心がサドルの中央にかかる事を確認してください。
（図2参照）
④確認後、ハンドルを上下に動かしてください。サドルが上昇し、車両をジャッキアップします。

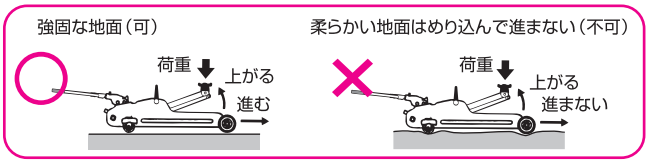


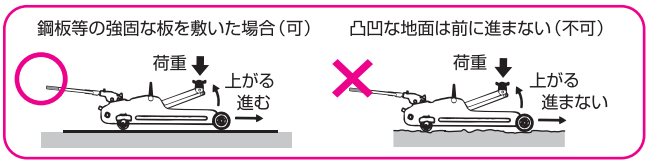
（図1）

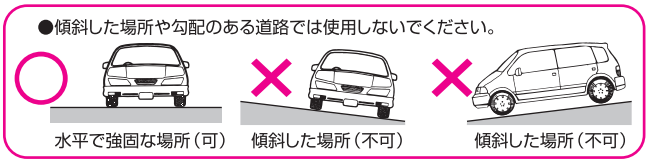


（図2）

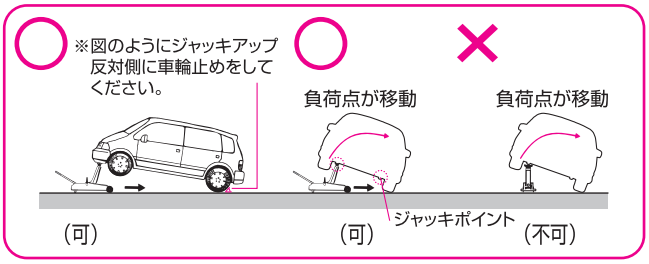
危険
●傾斜地や地面が軟弱な場所、及び平坦でない場所やジャッキの車輪が容易に回らない場所では、使用しないでください。ジャッキが傾いたり、サドルが外れて車両が落下し使用者が死亡したり負傷を負う危険があります。また,傾斜地ではジャッキアップ中に車両が動きだして重大な事故になります。







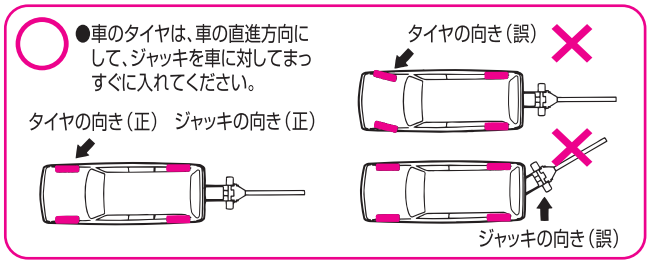
●サドルを上昇・下降させた時に、ジャッキが追従して移動することを確認した上で、使用してください。ジャッキが追従して移動できない場合、サドルがジャッキポイントから外れ、車両が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険があります。



●自動車メーカーの指定するジャッキポイント以外では、ジャッキアップしないでください。車体が変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。

危険
●ジャッキアップの際は車のタイヤをまっすぐの状態にして、ジャッキを車体に対してまっすぐに入れてください。ジャッキの向きが斜めになっている状態でジャッキアップした場合、サドルがジャッキポイントから外れ自動車が落下し使用者が死亡したり重傷を負う危険があります。

●サドルを上昇させて、サドルが車体に当たった時点で一度停止させて、サドルが車体のジャッキポイントの正しい位置（荷重の中心がサドルの中央にかかる位置）にセットされている事を確認してください。セットする位置がずれていた場合、車体が変形したり、荷重バランスの崩れにより重大な事故につながります。



注意
●電子制御エアサスペンション装着車は、ジャッキアップ時、必ず車の取扱説明書をご確認の上作業をしてください。車高が変わり思わぬ事故につながる恐れがあります。
●荷物や人を乗せたままジャッキアップしないでください。
●自動車のエンジンをかけたままで使用しないでください。
●ジャッキアップは、自動車のサイドブレーキをかけ、シフトはロー（A/T車は［P］パーキング）の位置で行ってください。
●左右両輪をジャッキアップする場合は、必ず車輪止めを使用してください。

●ハンドルの上下操作は、ハンドルをしっかり握って操作してください。ジャッキに異常が発生した場合、ハンドルがはね上がったり、急に操作が軽くなることがあり、けがをすることがあります。
●パンタジャッキ用のジャッキポイント（ロッカーパネル部ジャッキアップポイント）では、ジャッキアップしないでください。自動車のジャッキポイントが変形します。
※パンタジャッキ用のジャッキポイントでジャッキアップする場合は、必ず付属のジャッキアタッチメントを使用してください。

一定の高さで停止する場合

ハンドルの上下操作を停止すると、サドルが自動車を保持したままの状態になります。

危険
●ジャッキアップした状態のままで車体の下には絶対に入らないでください。車体の下に入って作業をする場合は必ず十分な耐荷重のあるジャッキスタンドを使用してください。

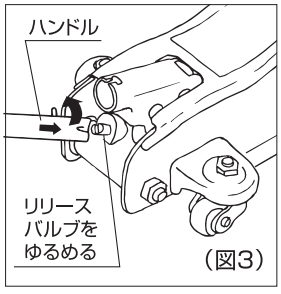
●ジャッキアップした状態のまま自動車を移動させたり、車体に衝撃を与えないでください。

ジャッキダウン

ハンドルを反時計方向（左側）に、ゆっくり回すとリリースバルブが緩み、サドルが下降します。（図3参照）

危険
●ハンドルを急に回さないでください。サドルが急激に降りるため、車両が落下し使用者が死亡したり重傷を負う恐れがあります。

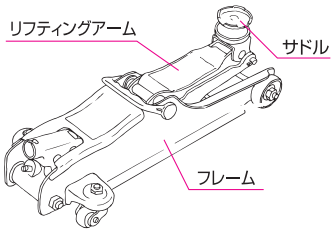
注意
●故障の原因になりますので、リリースバルブは3回以上回さないでください。



（図3）

作業終了

作業が終了したらサドルやリフティングアーム、フレーム等に付着した泥、オイル、グリス、水滴等の汚れをきれいに拭き取ってください。

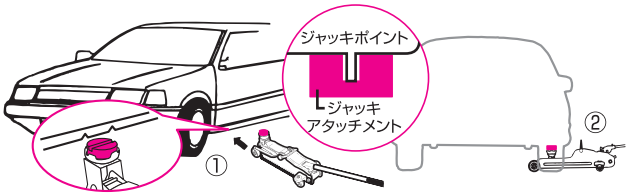


エアロパーツ装着車でサイドからジャッキアップできない場合もあります。その場合は、使用しないでください。それは、エアロパーツの形状により正規のジャッキポイントで作業できなく、エアロパーツが破損するばかりでなく、思わぬ事故を引き起こす原因となります。

ジャッキアップ手順

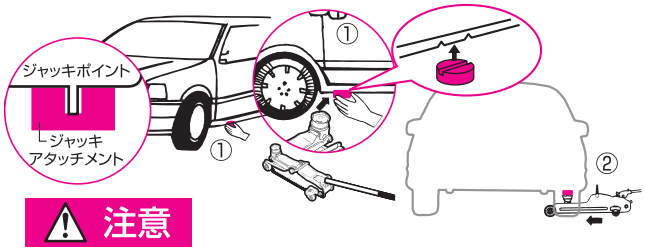
サイドジャッキアップ手順（Aタイプ）
付属のジャッキアタッチメントをサドルに乗せる

ジャッキアタッチメントを乗せたサドルを、車両のロッカーパネル部ジャッキポイントの下まで入れてジャッキの高さを合わせます。

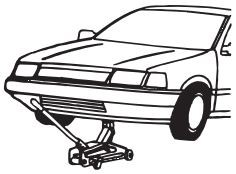


サイドジャッキアップ手順（Bタイプ）
Aタイプの仕方で、車両の下にジャッキが入らない場合

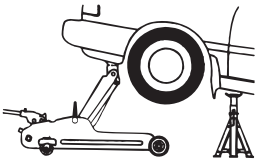
付属のジャッキアタッチメントを、車両のロッカーパネル部ジャッキポイント①に合わせてジャッキのサドルと合うようにジャッキアップします。



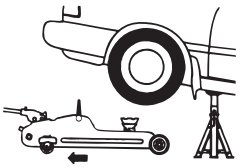
センタージャッキアップ手順



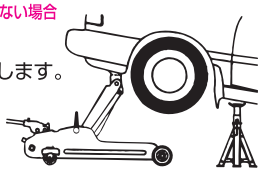
①ジャッキを使用してセンターでジャッキアップします。



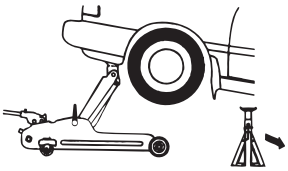
②ジャッキスタンドをジャッキポイントに高さを合わせて置きます。



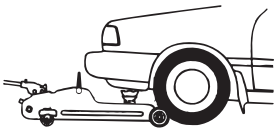
③ジャッキを下げて移動させます。
※車体がジャッキスタンドで完全に固定されていることを確認後作業をします。



④作業が終わりましたらジャッキで車体を再度ジャッキアップします。



⑤ジャッキスタンドを取り除きます。



⑥ジャッキをゆっくり下げます。

⚠ 注意

- ●本製品を使用する際は、必ず2t以下の車両にてご使用ください。
- ●車両をジャッキで上げたまま触れないでください。
- ●ジャッキで上げたまま車両の下に、絶対にもぐらないでください。大変危険です。
- ●車両の下で作業をする場合は必ずジャッキスタンドを使用してください。
- ●本製品は、業務用には使用しないでください。

※ジャッキを下げる際は、バルブを必ずゆっくりとまわし、ゆるめてください。
（急に回しますと、車両がいっきに下がりますので危険です。十分注意してください。）

安全バルブ（DO NOT ADJUST）について

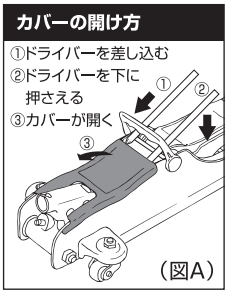
●フロアージャッキには、安全バルブが付いておりますが、このバルブはジャッキアップが適正　な荷重になる様に出荷時に調整されておりますので、絶対にさわらないでください。（ジャッキに適正荷重以上の負荷がかかった場合、作動しないようになっています。）

メンテナンス

ジャッキのお手入れ

①ジャッキを使用しないときは、錆などによる動作不良防止のため、リフティングアーム及びハンドルスリーブを最下位の位置に下げておいてください。
②ジャッキは常に清潔にして、可動部分に時々注油してください。
③オイルの量が減少した場合、適量を補充してください。（下記ジャッキオイルの補充及び交換参照）
④頻繁にご使用になる場合は、最良の状態で長期間保持させるため約1年毎にジャッキオイルを交換してください。
（下記ジャッキオイルの補充及び交換参照）
⑤保管する際は、錆や動作不良などの故障の原因になりますので、雨や雪の当たるところ及び湿気の多いところには保管しないでください。

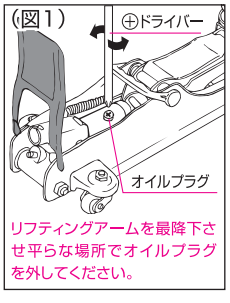
カバーの開け方



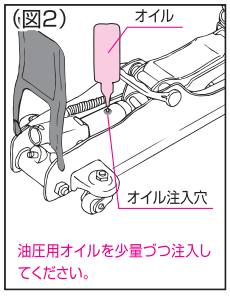
ジャッキオイルの補充及び交換

●ドライバーで、図Aの順序でカバーを開けてください。
①オイルプラグをプラスドライバーなどで外してリリースバルブをゆるめます。（図1）
②オイルプラグの穴を下に向けて、古いオイルを排出してください。
③ほぼ完全に排出した後にジャッキオイル（F-62別売）をオイルプラグの穴から入れすぎに注意して少量づつ注入してください。また、オイル注入中にゴミが入らないように注意してください。（図2）
④ジャッキオイルの適正量は、リフティングアームを最下位まで下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで約3mmの空間を設けた位置です。（約98cc）
⑤ジャッキが途中までしか上がらないときは、ジャッキオイルの不足、又はエアー抜きが完全に出来ていない事が考えられますのでジャッキオイルを適正な量まで補充して、エアー抜きをしてください。
⑥補充作業が終了しましたら、オイルプラグを元の状態に戻してください。

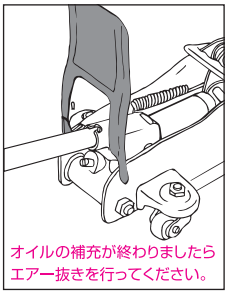
ジャッキオイルの補充方法



リフティングアームを最降下させ平らな場所でオイルプラグを外してください。

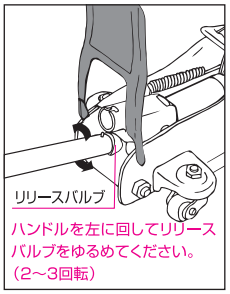


油圧用オイルを少量づつ注入してください。

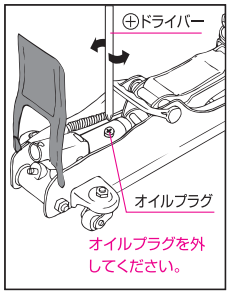


オイルの補充が終わりましたらエアー抜きを行ってください。

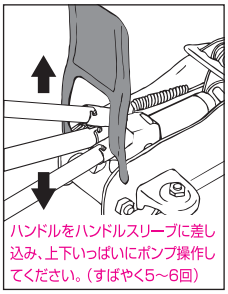
エアー抜き方法



ハンドルを左に回してリリースバルブをゆるめてください。（2～3回転）



オイルプラグを外してください。



ハンドルをハンドルスリーブに差し込み、上下いっぱいにポンプ操作してください。（すばやく5～6回）

●正常に作動しない時は、2～3回くりかえして行ってください。

⚠ 注意

- ●火気のある場所、又はその近くでオイル交換及び補充をしないでください。
- ●ジャッキオイルは指定されたものを使用してください。
  エンジンオイルやその他のオイルは粘度等が違うため作動不良の原因となりますので絶対に使用しないでください。
  作動油：油圧潤滑油（粘度:ISO 32 第4石油類危険等級Ⅲ 又はF-62 ジャッキオイルをおすすめします）
- ●ジャッキオイルを補充する際にオイルタンク一杯にジャッキオイルを入れるとジャッキが作動しません。必ずリフティングアームを最下位に下げた状態でオイルプラグの穴から油面まで約3mmの空間を設けてください。

故障と処置

故障かなと思われる前に、もう一度取扱説明書をよくお読みになり、下記の点検をしてください。
それでも、状態に変わりがない場合は、お買い上げの販売店又は、当社へご相談ください。

こんなときは

- 全然上がらない
  - リリースバルブが完全に締まっている
    - YES → ジャッキオイルが入っている
      - YES → 販売店又は当社にご相談ください
      - NO → ジャッキオイルを補充する
    - NO → 確実に締める
- 途中までしか上がらない
  - ジャッキオイルが不足している
    - YES → ジャッキオイルを補充する
      - YES → 余分なジャッキオイルを出す
      - NO → 販売店又は当社にご相談ください
    - NO → ジャッキオイルが多く入り過ぎている
- 自然に下降する
  - リリースバルブが完全に締まっている
    - YES → 販売店又は当社にご相談ください
    - NO → 確実に締める
- 下がりきらない
  - しゅう動部に注油されている
    - YES → オイルタンク部に空気が入り過ぎている
      - YES → サドルを最低位置まで下げオイルプラグを外して空気を抜く
      - NO → 販売店又は当社にご相談ください
    - NO → 注油する

関連商品（別売）

F-23
ジャッキスタンド2

●安全性を重視した設計
●6段階調節タイプ

最大耐荷重:4トン
ストローク:260～410mm
商品サイズ:208（W）×260（H）×190（D）mm
重　　量:約2.8kg×2台

F-62
ジャッキオイル（200mℓ）

油圧作動油、高速度軸受油と
幅広い用途の高級潤滑油。
ベースオイルに各種添加剤を配合。
粘度・ISO 32（第4石油類危険等級Ⅲ）

商品サイズ:50（φ）×180（H）mm
形式・用量:液体・ 200mℓ

eltec

大自工業株式会社

営 業 本 部　〒582-0027 大阪府柏原市円明町1000-126
TEL.0729-76-0101（代）/ FAX.0729-76-0105
東京営業所　〒170-0011 東京都豊島区池袋本町4-37-12-102
TEL.03-3590-6105/ FAX.03-3590-0478
●http://www.daiji.co.jp/　●Eメール:info@daiji.co.jp

MADE IN CHINA